

室蘭市フードロス削減プロジェクト

(子育て家庭をナッジする直接廃棄削減促進モデル事業)

事業報告書

2026年1月30日



株式会社住環境計画研究所



1. **事業の目的**
2. **事業の内容**
3. **事業の実施体制**
4. **事業の成果**
5. **今後の検討課題**
6. **事業終了後の展開**
7. **横展開へのポイント**



1. 事業の目的

食品ロス対策の課題

課題1: 食品ロスのうち直接廃棄の割合が多い

室蘭市の食品ロス量のうち**直接廃棄が約6割**(全国平均は約4割)と多い。また市民アンケートからも「食材の種類・量・期限表示を確認する」の実施率やフードドライブの認知度は低く、**直接廃棄の課題認知度が低い**と考えられる。

課題2: 多忙な子育て世代は食材管理実施率が低い

子育て世代は食品ロスの廃棄頻度が高く、食材管理等の実施率が低い。その理由として仕事や育児で多忙であることが指摘されている*1。

*1 神戸市食品ロス削減アクションメニュー改訂版, 2021年3月



目的・方針

- 家庭内の**手付かず食品の在庫確認・使い切り・寄付を促すため**、食品ロス削減月間にあわせて、小学校高学年の児童を対象に学校を通じて啓発資料を配布する。
- 家庭の食品ロス削減対策は小学生のみでは実施できないため、**児童を通じて保護者を巻き込む(ナッジ)**ことで、多忙な子育て世代の行動変容を狙う。
- 啓発資料を配布するだけでなく「**むろらんフードロスクエスト**」*2として、児童のワークシート記入や保護者のアンケート回答をポイント化し、目標達成を目指す**ゲーミフィケーション要素を合わせる**ことで、児童の主体的な参加を促す。

*2 「フードロス」は本来食品の生産～流通過程で発生する食品廃棄を指すため、正確には家庭で発生する廃棄は「食品ロス」とするべきであるが、親しみやすさや呼びやすさを重視し、プロジェクト名称・資料タイトルでは「フードロス」の用語を用い、本文中の表記では「食品ロス」に統一することとした。



2. 事業の内容

室蘭フードロスクエストの概要

家庭系食品ロスの削減を目的に、ゲーミフィケーション要素を導入した食品ロス削減の啓発(フードロスクエスト)を小学校児童を対象に実施した。

10月の食品ロス削減月間に合わせて、室蘭市内の小学校(3校)へ啓発資料(チャレンジシート)を配布し、手付かず食品探しを2週間実施してもらった。その後、シートを提出してもらい、取り組み結果についてフィードバックを送付した。



①啓発チラシ・アンケートを小学校に配布

②チラシとアンケートを持ち帰ってもらう

⑥回収したアンケートを集計し、クラス別のポイントをフィードバック



小学校



対象児童の家庭



- ③アンケートに回答(事前調査)
- ④手つかずのままになっている食品がないか親子で探す等、家庭内で食品ロス削減の取組を実施
- ⑤アンケートに回答(事後調査)



手つかず食品の使い切り



フードドライブ実施店舗への持ち込み
(フードドライブ点数と重量を計測)

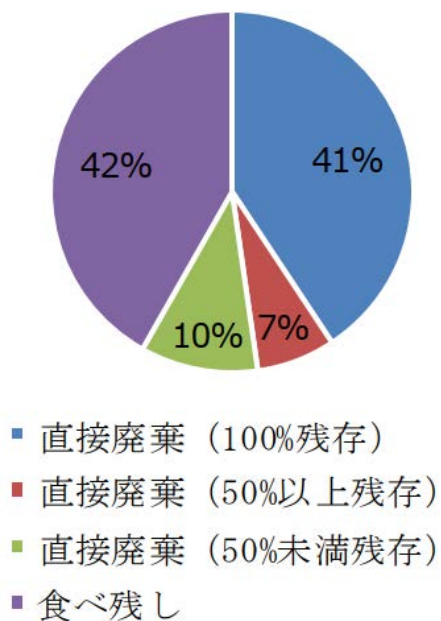


2. 事業の内容 モデル事業の実証エリア・対象

モデル事業の対象は、北海道室蘭市の小学校3校の高学年児童(210名)およびその家庭である。室蘭市では食品ロス量のうち直接廃棄が約6割と多いこと、直接廃棄の課題認知度が低いことが課題となっている。

室蘭市の食品ロスの内訳

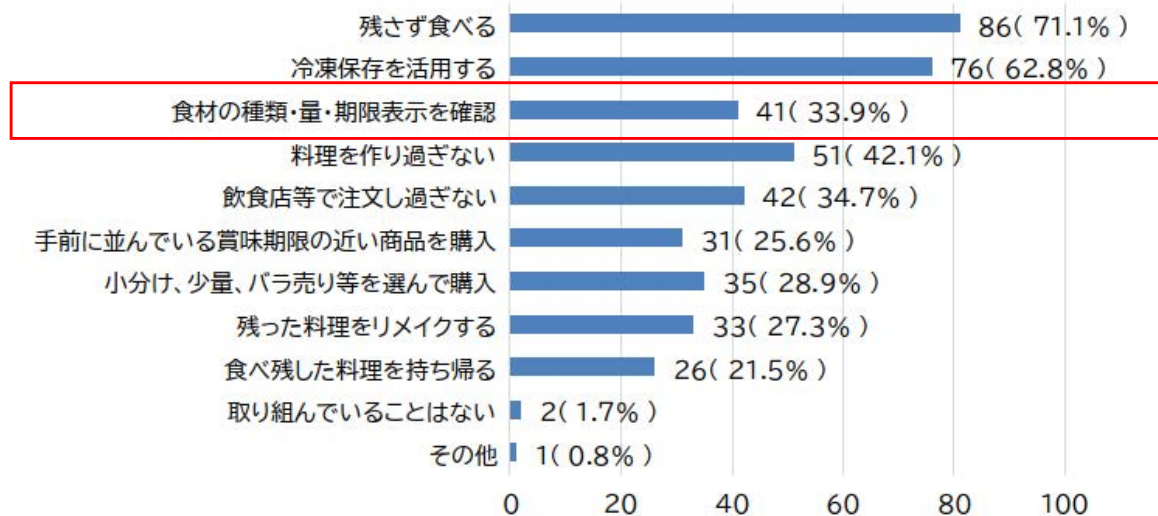
家庭から排出される食品ロスの58.2%が手付かず食品(直接廃棄)、そのうち100%残存が40.7%



(出所)室蘭市食品ロス削減計画

室蘭市民の食品ロス削減対策の実施状況

家庭系食品ロス対策では、「食材の種類・量・期限表示を確認する」の実施率が34%と低い



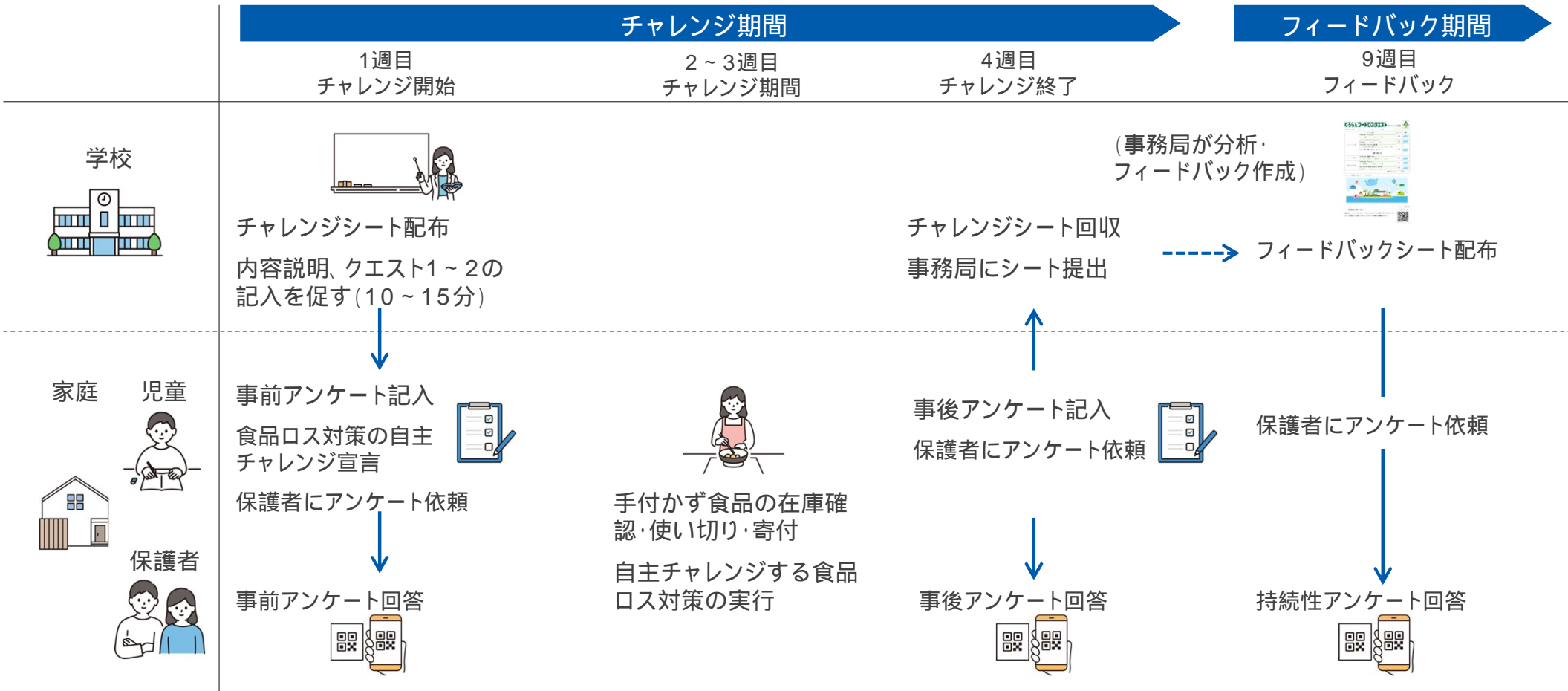
(出所)室蘭市「令和5年度食品ロスに関するアンケート実施結果」



2. 事業の内容 モデル事業の実施フロー

配布・説明: ホームルーム等でチャレンジシート配布*、実施内容説明とクエスト1～2の記入を促す。
チャレンジ期間中: 事前アンケート回答、手付かず食品の探索、自主チャレンジに各家庭で取り組む。
チャレンジ終了後: 各家庭からチャレンジシートを回収。回収したシートをもとに事務局が分析。
フィードバック期間: 個人・全体フィードバックシートを配布、持続性アンケート回答を依頼。

* モデル事業では、ホームルーム等の時間内で10～15分で配布・説明・記入していただき、チャレンジシートは任意提出とした。





2. 事業の内容

作成した啓発資料(チャレンジシート)の裏面

クエスト1 (児童) (事前アンケート)

食ロス問題の認知や、すでに取り組んでいる食品ロス対策を調査

クエスト2 (チャレンジ宣言)

これから取り組みたい食品ロス対策を記入してもらうことで、コミットメント効果*を狙う

クエスト3 (食品さがし)

自宅の中にある食品を探して、賞味期限が一番短い(古い)食品とその使い道を記入

保護者アンケート (事前)

食ロス対策の取り組みや食品廃棄頻度を調査

このシートは 10月 日までに提出をお願いします

クエスト1 | 最初にアンケートに答えよう！

10 ポイント

<児童用>
あてはまるものに○をつけて、ポイントをゲットしよう！

① 食品ロスが問題になっていることを知っていましたか？	知っていた	知らなかった
② 食品ロスをへらすために、これまであなたが取り組んだことがあるものに○をつけよう！		

買い物	おうち	給食や外食
() 買い物前に家の中にある食品をかくにんする	() 残さず食べる	() 給食では食べきれないと思う量を取って、残さず食べる
() 食品を買いすぎないようにする	() 食品ロスが出ないように、他の人に声をかける	() 外食では食べきれないと思う量を注文して、残さず食べる
() すぐに食べる食品は、商品棚の手前から取る	() 食べきれない食品を知り合いの人にあげたりフードドライブにきふする	() 外食では食べきれないと思う量を注文して、残さず食べる

アンケート1回目
10/6~10/13まで

キーワード記入らん

クエスト4 | 最後にアンケートに答えよう！

20 ポイント

<児童用>
あてはまるものに○をつけてポイントをゲットしよう！

① クエスト1に取り組んでみて、おうちの中の食品が食品ロスにならないようにできましたか？	できた	できなかった
② クエスト2で決めた対さくを実行することができましたか？	できた	できなかった
③ これからも食品ロスをへらすために、おうちや外で取り組みたいですか？	取り組みたい	取り組みたくない
④ 食品ロスをへらすために、これまであなたが取り組んだことがあるものに○をつけよう！		

買い物	おうち	給食や外食
() 買い物前に家の中にある食品をかくにんする	() 残さず食べる	() 給食では食べきれないと思う量を取って、残さず食べる
() 食品を買いすぎないようにする	() 食品ロスが出ないように、他の人に声をかける	() 外食では食べきれないと思う量を注文して、残さず食べる
() すぐに食べる食品は、商品棚の手前から取る	() 食べきれない食品を知り合いの人にあげたりフードドライブにきふする	() 外食では食べきれないと思う量を注文して、残さず食べる

アンケート2回目
10/20~10/27まで

キーワード記入らん

クエスト2 | 自分が選んだ食品ロス対さくにチャレンジしよう！

20 ポイント

クエスト1の②で答えた対さくを参考に、取り組んだことがないものをひとつ選んでチャレンジしてみよう！
全部取り組んでいた人はさらにできることを考えて宣言(せんげん)しよう。
わたしは、食品ロスをへらすために _____ にチャレンジします！

クエスト3 | ぐ おうちにねむっている食品をさがそう！

30 ポイント

さがした日: _____ 未開ふうの食品をさがそう
冷凍庫の食品以外をさがそう

食品の種類	見つけた中で賞味期限が一番短い食品の名前	賞味期限	それをどうする？ (○をつける)
(例)かんづめ	さばのかんづめ	2025年11月	食べる あげる すてる
かんづめ 	野菜や魚、豆、パンなどのかんづめ		食べる あげる すてる
インスタント食品 	レトルト食品 お湯をかけたり温めたりするとすぐに食べられる食品		食べる あげる すてる
調味料 	しょうゆやたれ、だし、チューブの調味料など		食べる あげる すてる

クエスト4 (事後アンケート)

クエスト2で宣言した取組の実施状況や、期間中に取り組んだ食品ロス対策、今後の食品ロス対策実施意向を調査

保護者アンケート (事後)

食ロス対策の取り組みや食品廃棄頻度を調査

クリアしたクエストは？

みんなががんばってクリアしたクエストのおかげで、未来のそらたん島が変わるよ！
パワーアップしたそらたん島のすがたは1か月後に配られるよ、楽しみにしててね！



「むろらんフードロスクエスト」とは
「むろらんフードロスクエスト」は、家庭から出る食品ロス排出を減らすために、子どもたちと一緒に楽しく取り組むプロジェクトです。
本事業は、環境省のモデル事業(令和6年度補正予算 消費者の行動変容等による家庭系食品ロスの削減推進モデル事業)の一環として、空欄市が市内小学校と連携して実施しています(受託事業者:株式会社 環境計画研究所)。
回答いただいた内容は、個人が特定されないように匿名化したうえで、事業の効果検証や成果報告に活用させていただきます。
なお、アンケートへのご回答は任意であり、回答の有無や内容が学校での成績や評価に影響することは一切ありません。

* コミットメント効果: 自分が行う行動を書き出すことや宣言することで、将来その行動を実施する確率が高まること



2. 事業の内容

参加児童のチャレンジシート記載例

クエスト2 | 自分が選んだ食品ロス対さくくにチャレンジしよう！

クエスト1の②で答えた対さくを参考に、取り組んだことがないものをひとつ選んでチャレンジしてみよう！
全部取り組んでいた人はさらにできることを考えて宣言(せんげん)しよう。

20 ポイント

わたしは、食品ロスをへらすため
苦手な食べ物(野菜や魚、豆、パンなど)を食べる時には、できるだけ残さず食べこむにチャレンジします！



クエスト2 | 自分が選んだ食品ロス対さくくにチャレンジしよう！

クエスト1の②で答えた対さくを参考に、取り組んだことがないものをひとつ選んでチャレンジしてみよう！
全部取り組んでいた人はさらにできることを考えて宣言(せんげん)しよう。

20 ポイント

わたしは、食品ロスをへらすため
しょうゆやたれ、だし、チューブの調味料など



チャレンジシートの記入例
(クエスト2)

クエスト3 | うちにねむっている食品をさがそう！

さがした日: 2023年10月21日

30 ポイント
・未開ふうの食品をさがそう
・冷ぞう庫の食品以外をさがそう

食品の種類	見つけた中で賞味期限が一番短い食品の名前	賞味期限	それをどうする？ (○をつける)
(例)かんづめ	さばのかんづめ	2025年11月	食べる <input checked="" type="radio"/> あげる すてる
かんづめ 野菜や魚、豆、パンなどのかんづめ	トマトのかんづめ	2027年8月31日	食べる <input checked="" type="radio"/> あげる すてる
インスタント食品 レトルト食品 お湯をかけたり温めたりするとすぐに食べられる食品	土産 ラーメン(お湯)	2026年5月16日	食べる <input checked="" type="radio"/> あげる すてる
調味料 しょうゆやたれ、だし、チューブの調味料など	あじこに入たく	2026年5月22日	食べる <input checked="" type="radio"/> あげる すてる

クエスト3 | うちにねむっている食品をさがそう！

さがした日: 10月13日

30 ポイント
・未開ふうの食品をさがそう
・冷ぞう庫の食品以外をさがそう

食品の種類	見つけた中で賞味期限が一番短い食品の名前	賞味期限	それをどうする？ (○をつける)
(例)かんづめ	さばのかんづめ	2025年11月	食べる <input checked="" type="radio"/> あげる すてる
かんづめ 野菜や魚、豆、パンなどのかんづめ	かぼちと小豆のかんづめ	2015年5月	食べる <input checked="" type="radio"/> あげる すてる
インスタント食品 レトルト食品 お湯をかけたり温めたりするとすぐに食べられる食品	チキンラーメン	2025年5月	食べる <input checked="" type="radio"/> あげる すてる
調味料 しょうゆやたれ、だし、チューブの調味料など	シナモン	2015年5月	食べる <input checked="" type="radio"/> あげる すてる

チャレンジシートの記入例
(クエスト3)



2. 事業の内容

クエスト獲得ポイントに応じた個人フィードバックシート

事業実施後、各クエストの記入数*に応じた獲得ポイントと、到達ステージを個人別にフィードバックした。合わせて、保護者向けの持続性アンケート用QRを掲載して、回答を依頼した。

むろらんフードロスクエスト チャレンジ結果 

地球岬 小学校 5年 X組 XX番

クエスト内容	ポイント	結果
クエスト1 アンケート クエスト1「最初にアンケートに答えよう！」の回答	10	
キーワード1回目「てまえどり」 保護者事前アンケート1回目のキーワードの記入	10	
クエスト2 チャレンジ宣言 クエスト2「自分が選んだ食品ロス対そくにチャレンジしよう！」の記入 あなたが選んだ食品ロス削減アクションは… 残さず食べる	20	
クエスト3 食品さがし クエスト3「おうちにねむっている食品をさがそう！」の記入	30	
クエスト4 アンケート クエスト4「最後にアンケートに答えよう！」の回答	20	
キーワード2回目「おいしいめやす」 保護者事前アンケート2回目のキーワードの記入	10	
合計ポイント		100

取組状況の振り返り
クエストとして設定した、チャレンジ項目の実施状況と、取組に応じた得点のフィードバック

チャレンジ結果 到達ステージ:STAGE3



到達ステージの表示
獲得した得点により、3段階でイラストが変化する

— 保護者の皆さまへ —

最後に、「むろらんフードロスクエスト」に関するアンケートへのご回答をお願いいたします。(目安回答時間:約3分)

アンケート3回目
12/15まで



保護者アンケートの案内
持続性アンケートの案内とQR

* 生活状況の違いに配慮し、ポイント獲得機会の公平性の観点から、児童・保護者アンケートの回答内容はポイントに反映しないものとした



2. 事業の内容

参加者全体へのフィードバックシート

実証参加校の児童全体に、参加人数や推定食品ロス削減量、自主チャレンジの上位5項目、食品ロス削減のための追加アドバイスを掲載した全体フィードバックを提供した。

むろんコードロスクエスト 結果発表!

クエストに参加してくれてありがとう!

今回のクエストで、これだけの食品ロスをはらすことができました!

<p>参加人数</p> <h1>210</h1> 名 ^{※1} <p><small>※1 チャレンジシートの配布人数</small></p>	<p>食品ロスさくげん量</p> <h1>65</h1> kg ^{※2} <p><small>※2 食品ロスさくげん量は、保護者アンケートの結果から計算したものです。</small></p>
---	--

みんながチャレンジした「食品ロス対さく」ランキング!

1位	残さず食べる	27人
2位	買い物の前に家の中にある食品をかくにんする	21人
3位	すぐに食べる食品は商品棚の手前から取る	20人
4位	食品を買いすぎない/他の人に声をかける	16人
5位	食べきれない食品を他の人にあげたりフードロスにきふする	13人

食品ロスをもっとはらすためのアドバイス!

🛒 買い物のとき

- 食品を買いすぎないように、冷蔵庫の中身を整理しよう

買い物メモを作るのもいいね!

- 買った食品がむだにならないように、賞味期限や消費期限をよく見て買おう

すぐ食べるなら「てまえどり」をしよう
このラベルをお店で見たら思い出してね!

すぐ食べるなら「てまえどり」

🍎 保存するとき

- 正しい方法で保存して、食品をおいしく食べよう
- 残っている食材から使いきるようにしましょう

みんながクエストで見つけた食品(とくに多かったもの)

賞味期限はおいしく食べられる期限!(おいしいめやす)期限を過ぎてても、すぐにすてないで!

ツナ缶 ラーメン しょうゆ

参加人数・推定食品ロス削減量
本実証の参加人数(チャレンジシート配布人数)と期間中の食品ロス削減量の推定値を紹介

宣言した食品ロス対策ランキング
参加児童が宣言した食品ロス対策内容のうち、上位のものを紹介

追加のアドバイス
チャレンジシートで紹介した対策内容以外の食品ロス対策や、市の食品ロス施策などを紹介



3. 事業の実施体制

事業の実施体制

[実施主体]

- プロジェクト管理
- 実証内容・効果検証方法の設計
- 啓発資料やアンケートの設計・作成
- モデル事業の効果測定
- モデル事業の展開に向けた改善案のとりまとめ
- 報告資料作成

[フィールド提供]

- 実証フィールド提供
- 教育関係部局・小学校調整
- 啓発資料の配布・回収
- フードドライブデータ提供

[アドバイザー]

- 啓発資料作成・教育現場での効果検証方法の助言

[アドバイザー]

- 水平展開方法に関する助言
- 北海道内市町村への展開支援





4. 事業の成果

アンケート調査概要

本事業では、児童と保護者それぞれの食品ロス関連意識と行動の変化を測定し、効果検証に活用する。

- 児童には、事業前後の計2回啓発資料に記入する形式で回答を依頼した。
- 保護者には、事業前後と事業1ヶ月後の計3回、オンラインで回答を依頼した。

アンケート調査概要

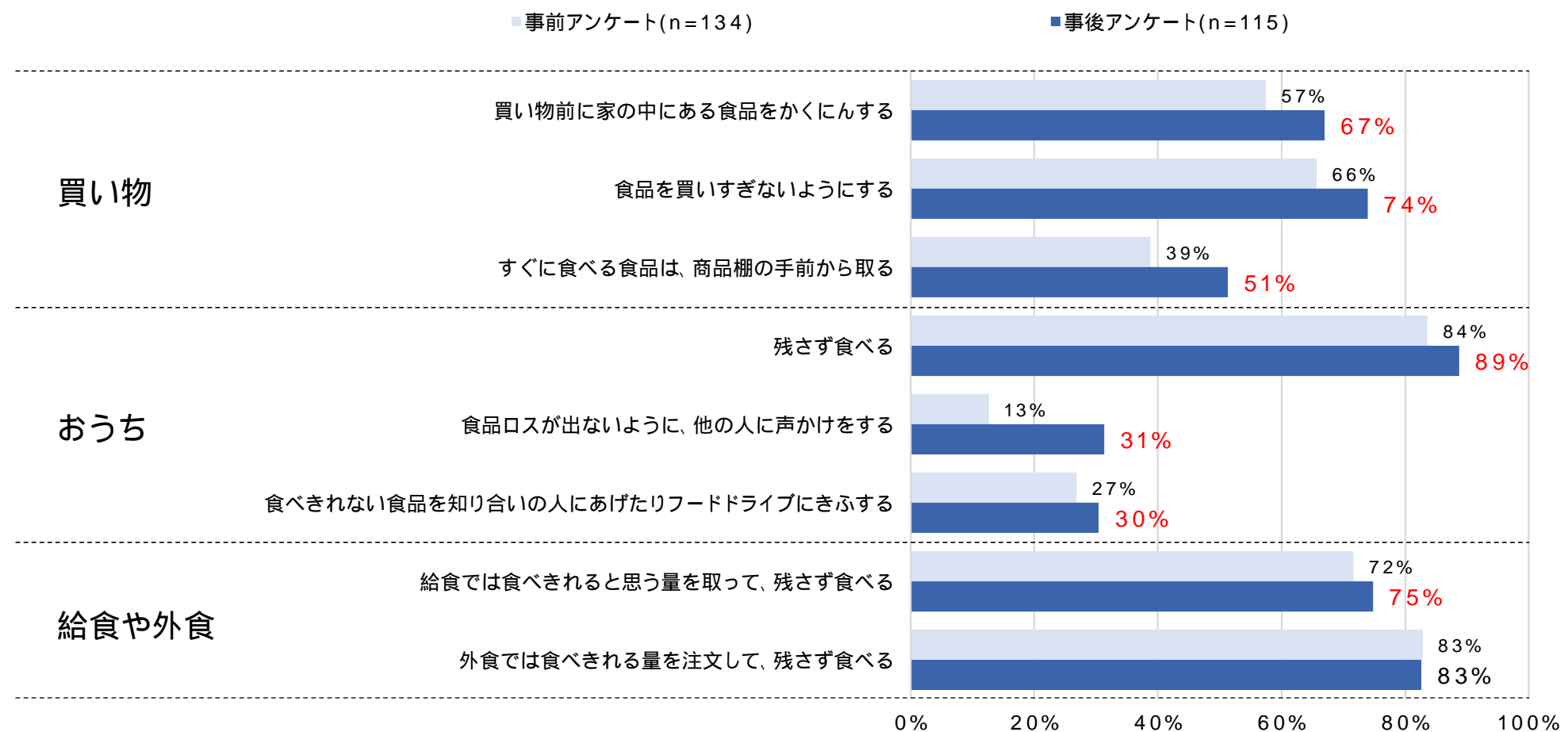
回答者	事前 (10/6 ~ 10/13)	事後 (10/20-10/27)	持続性 (12/8-12/15)
児童 	<ul style="list-style-type: none"> • 食品ロス問題の認知 • 食品ロス対策の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> • 食品ロス対策の実施状況 • 自主チャレンジ対策の実施有無 • 今後の対策実施意向 	
保護者 	<ul style="list-style-type: none"> • 世帯属性 (人数・世帯類型) 	<ul style="list-style-type: none"> • チャレンジ期間の取組結果 • 食品ロスに対する意識の向上 • チャレンジ期間のお子様の様子 	<ul style="list-style-type: none"> • 食品ロスに対する意識の向上 • チャレンジ後のお子様の様子
	<div style="background-color: #e0e0e0; padding: 10px;"> <p>[保護者アンケート共通調査項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 食品ロス問題の認知 • 食品ロス対策実施状況 (11項目) • 食品ロス発生頻度 (直近1週間) </div>		



4. 事業の成果

食品ロス対策行動の実施率(児童アンケート)

8項目の食品ロス対策行動の実施状況を実証前後で比較したところ、「**外食では食べきれる量を注文して、残さず食べる**」を除く**7項目で実施率が増加した**。



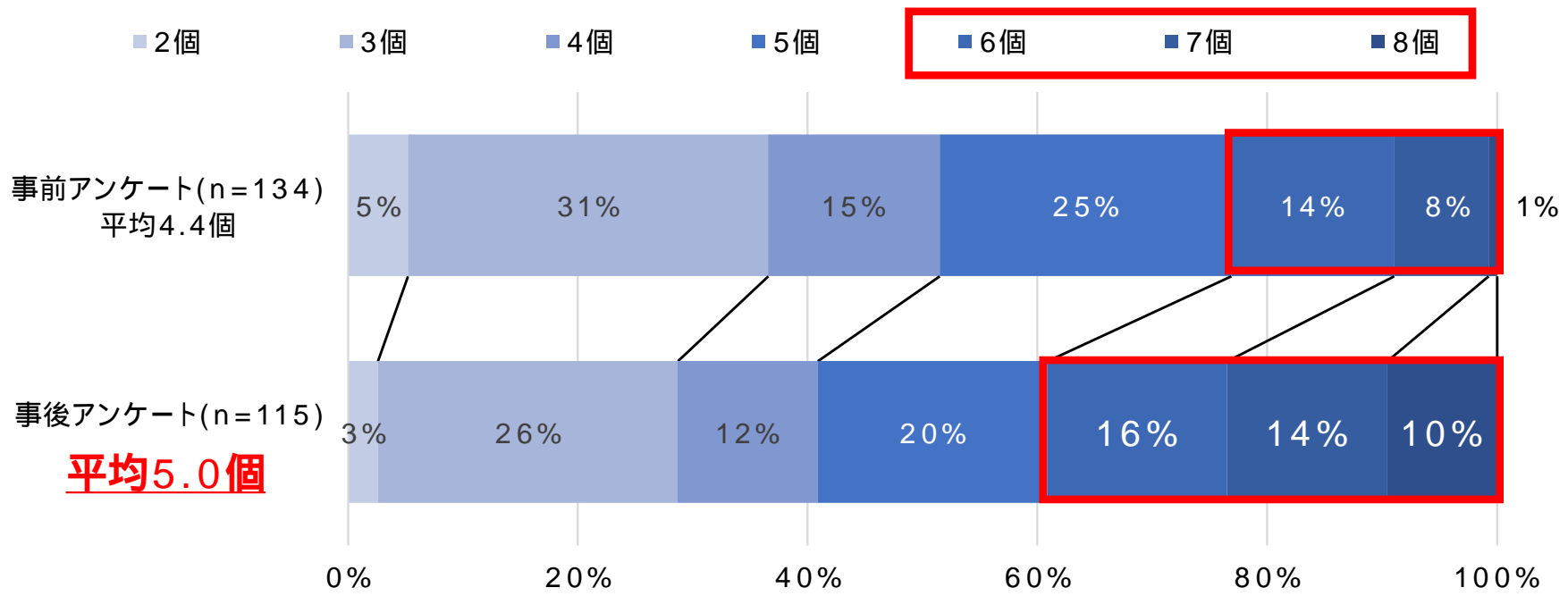
食品ロス対策実施率の前後比較



4. 事業の成果

食品ロス対策行動の実施項目数 (児童アンケート)

前頁で示した8項目の対策行動の平均実施項目数も実証後に増加した。実施数を6～8個と回答した児童の割合が増加している。



平均5.0個

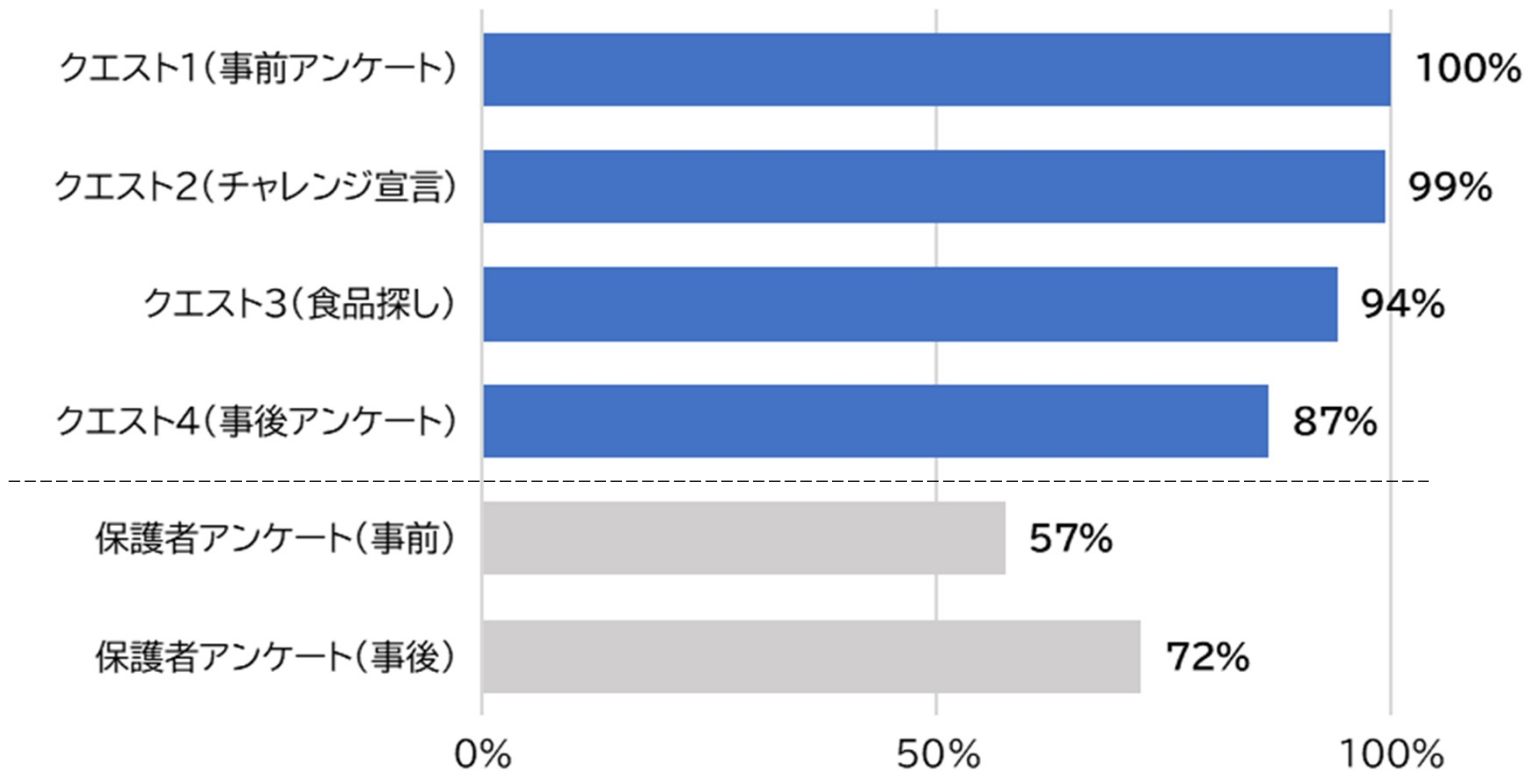
食品ロス対策実施項目数の前後比較



4. 事業の成果

各クエストの実施率(児童アンケート)

各クエストの実施率は87～100%でいずれも非常に高かった。
保護者アンケートの回答キーワード記入率は実証前よりも実証後の方が高かった。



「保護者アンケート」はアンケート回答後に出るキーワードの記入割合を示しているため、実際の保護者アンケートの回答数とは異なる。

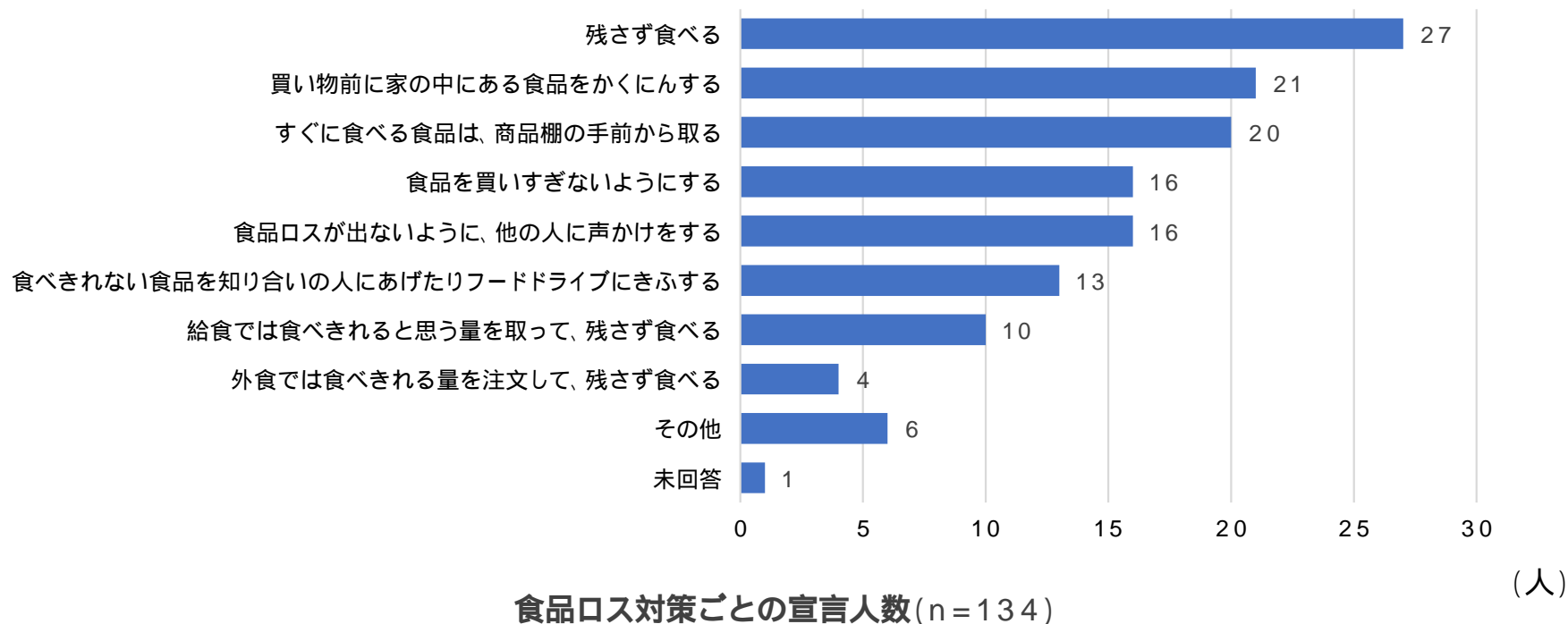
各クエストの実施率(n=134)



4. 事業の成果

食品ロス対策宣言の内容(児童アンケート)

宣言内容は「残さず食べる」が最も多く、次いで「買い物前の食材確認」、「てまえどり」の順であった。



「その他」の宣言内容(抜粋)

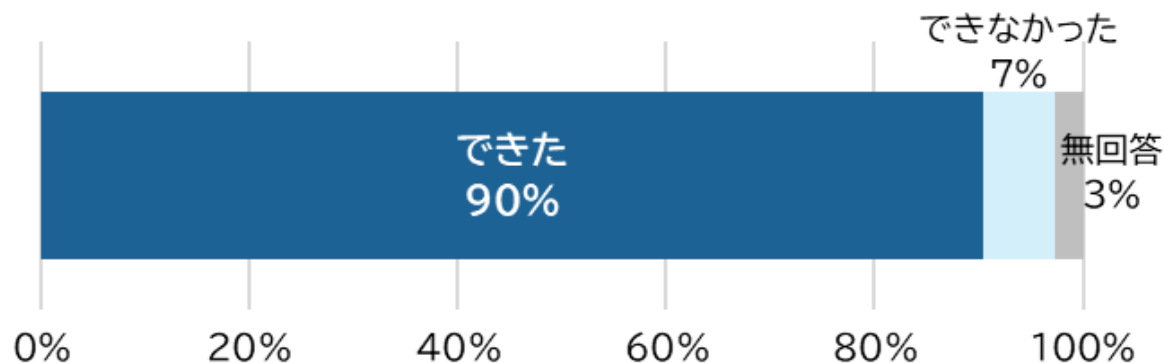
- 食品ロスがなくなるようにする
- 期限がちかいものを先に食べる / 賞味期限がきれるまえに食べる / 賞味期限や消費期限がきれる前にたべる
- 賞味期限や消費期限を確認して食べる
- ほかの家族がのこしても自分がたべてロスをへらす



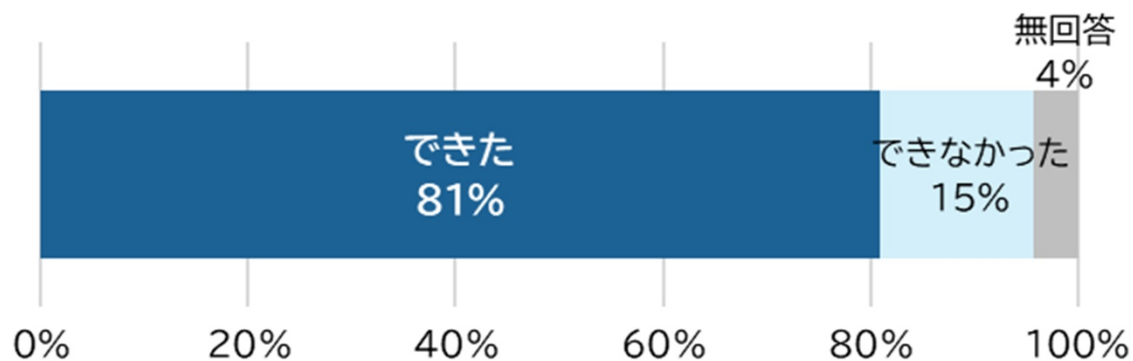
4. 事業の成果

クエスト期間中の食品ロス対策行動への自己評価(児童アンケート)

食品ロスを減らすように取り組めたかについては、9割の児童が「できた」と回答した。
また、クエスト2で宣言した対策を実施できたかについては8割が「できた」と回答した。



「クエストに取り組んでみて、おうちの中の食品が食品ロスにならないようにできましたか？」
回答分布(n=115)



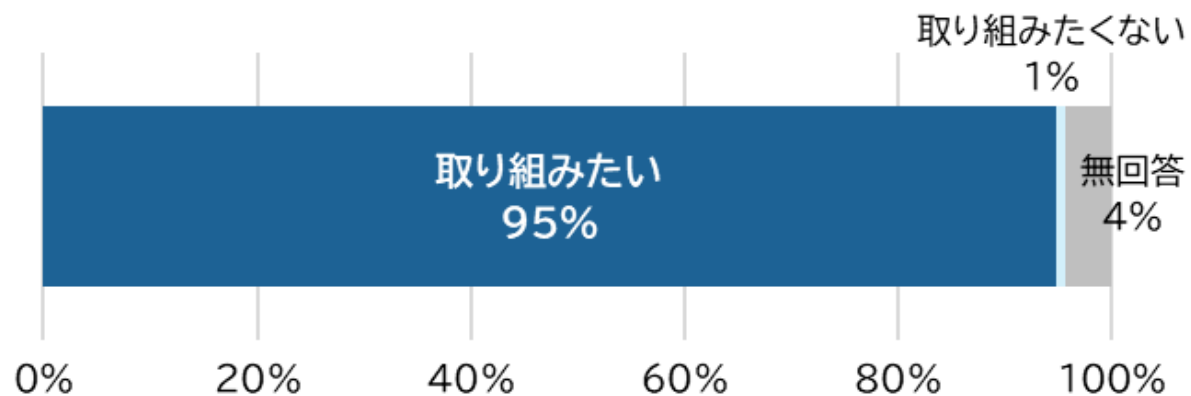
「クエスト2で決めた対さくを実行することができましたか？」
回答分布(n=115)



4. 事業の成果

今後の食品ロス対策実施意向(児童アンケート)

事後アンケートに回答した児童の95%が、今後も対策を実施したいと回答した。



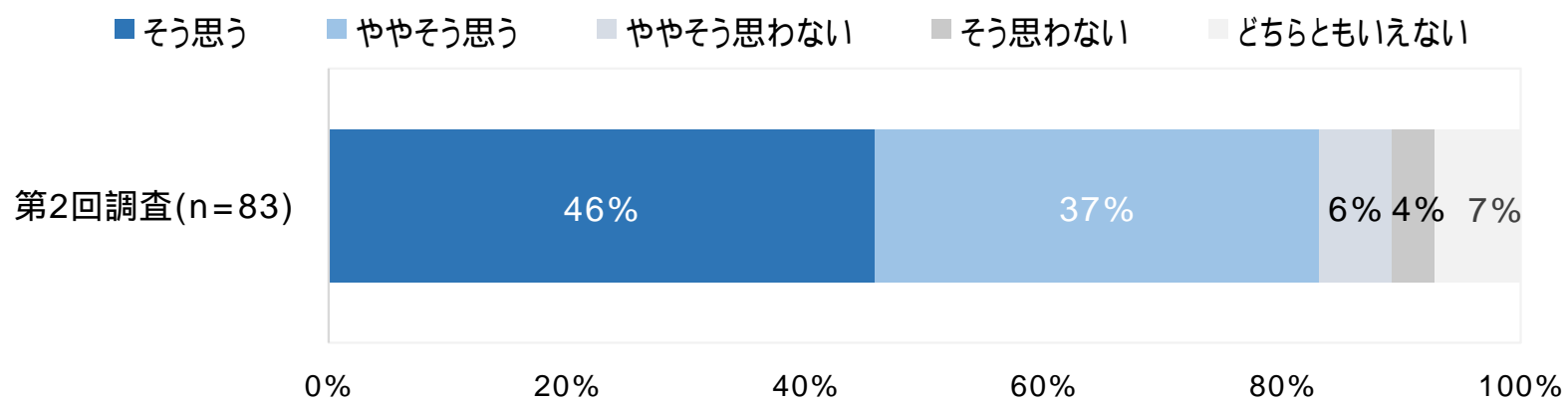
「これからも食品ロスをへらすために、おうちや外で取り組みたいですか？」
回答分布(n=115)



4. 事業の成果

食品ロス対策に関する意識変化(保護者アンケート)

実証前に比べて実証後に食品ロス対策意識が高まったかを確認したところ、8割強の保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答していた。



「1か月前と比べて、食品ロスに対する意識は高まりましたか」
回答分布(n=83)



保護者の方からの声(保護者アンケート)

実証に関する感想からも、小学生を通じた保護者の意識変容や行動変容が確認できる

意識の変化

缶詰めが期限切れになっていることに気づいた。
なかなか普段確認しない缶詰類を時々期限を確認しなければならないと思った。

食べ残しもあるので作る量を見直すきっかけになりました。

実施直後は、母(私)へのチェックが厳しかったです。

行動の変化

苦手な食材でも残さず頑張って食べるように取り組んでました

買い物に出かける前に「冷蔵庫の中身は確認した？」と声かけしてくれました。

実証内容について

今の子は簡単に残すので、良い取り組みだと思います

定期的開催して意識して欲しいです。

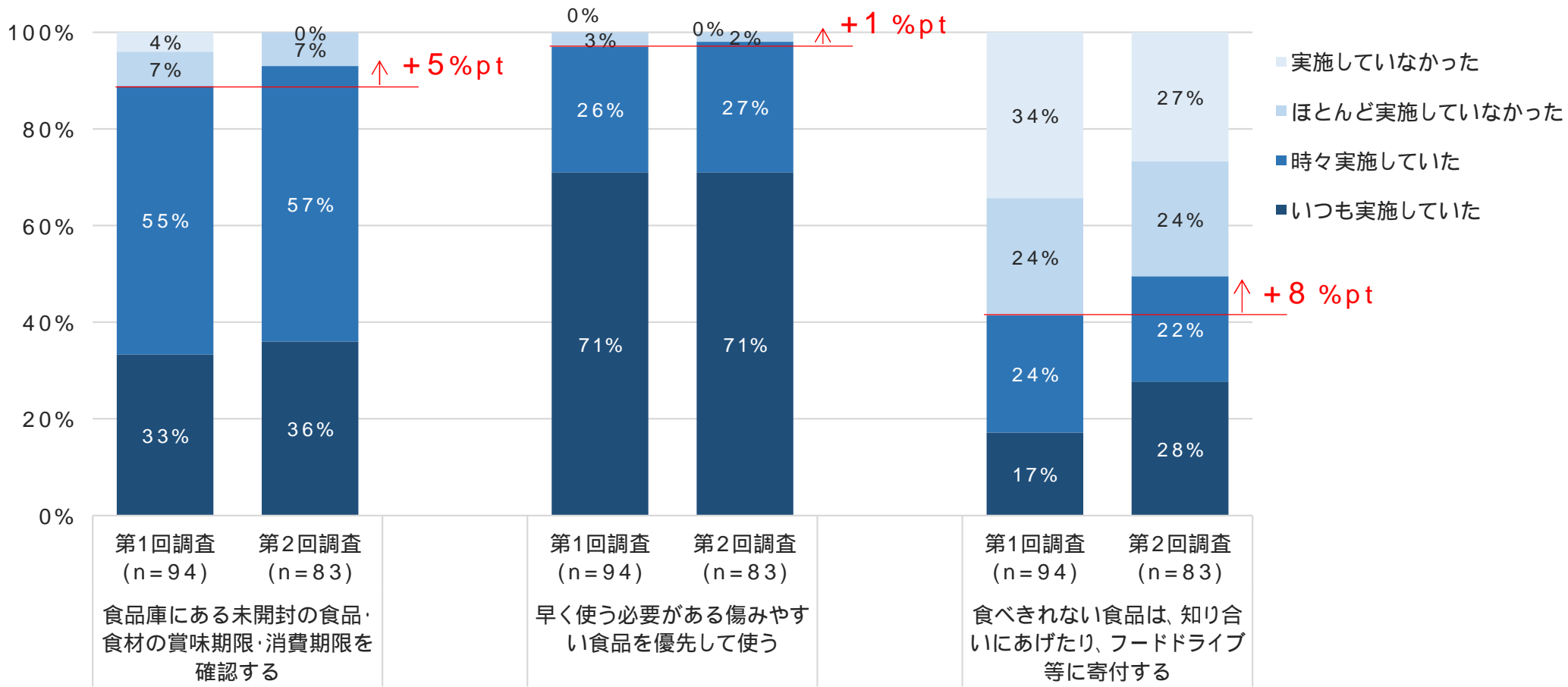


4. 事業の成果

モデル事業実施期間内のゴール(目標)に対する達成状況

食品ロス対策実施率の向上目標に対する実績は以下のとおり:

- 食品庫にある未開封の食品・食材の賞味期限・消費期限を確認する: +5%pt(目標10%pt)
- 早く使う必要がある傷みやすい食品を優先して使う: +1%pt(目標5%pt)
- 食べきれない食品は、知り合いにあげたり、フードドライブ等に寄付する: +8%pt(目標10%pt)



食品ロス対策実施率の前後比較(保護者アンケート)



4. 事業の成果

食品ロス削減量の推計結果

保護者アンケートによる事業前後の食品廃棄頻度から食品ロス削減量は65kgと推計された。
 参加世帯数を実績値として実施計画時の算定方法*1で算出した目標値は51kgであり、目標を上回った。

*1 室蘭市の平均的食品ロス排出量 82(g/人・日) × 直接廃棄割合58.2(%) × 児童のいる家庭の平均世帯人数 3.65(人/世帯) × 実証期間 14(日) × 実証対象の家庭数 210(世帯) × モデル事業による直接廃棄の削減率10(%) = 51(kg)

食品ロス削減量の推計結果

項目	実施前	実施後	差分(変化量)
「直接廃棄」頻度(日/週・世帯)*2	0.60 (日/週・世帯)	0.63 (日/週・世帯)	+0.03 (日/週・世帯)
「食べ残し」頻度(日/週・世帯)*2	0.90 (日/週・世帯)	0.70 (日/週・世帯)	-0.20 (日/週・世帯)
「直接廃棄」廃棄量(g/週・世帯)	823.12 (g/週・世帯)	864.27 (g/週・世帯)	41.15 (g/週・世帯)
「食べ残し」廃棄量(g/週・世帯)	883.39 (g/週・世帯)	687.08 (g/週・世帯)	-196.31 (g/週・世帯)
合計食品ロス量(g/週・世帯)	1,706.5 (g/週・世帯)	1,551.3 (g/週・世帯)	-155.2 (g/週・世帯)
食品ロス量(kg/期間・参加世帯)	716.7 (kg/期間・参加世帯)	651.6 (kg/期間・参加世帯)	-65.1 (kg/期間・参加世帯)

本実証による食品ロス削減量

(参考)推計に使用した各種係数

項目	係数	出典
「直接廃棄」廃棄量の原単位(g/週・人)	334.6 (g/週・人)	室蘭市の組成調査結果より
「食べ残し」廃棄量の原単位(g/週・人)	239.4 (g/週・人)	室蘭市の組成調査結果より
平均世帯人数(人/世帯)	4.1(人/世帯)	本事業の保護者アンケート回答世帯の平均値
参加世帯数(世帯)	210(世帯)	本事業のチャレンジシート配布人数
期間(週間)	2(週間)	本事業の実施期間

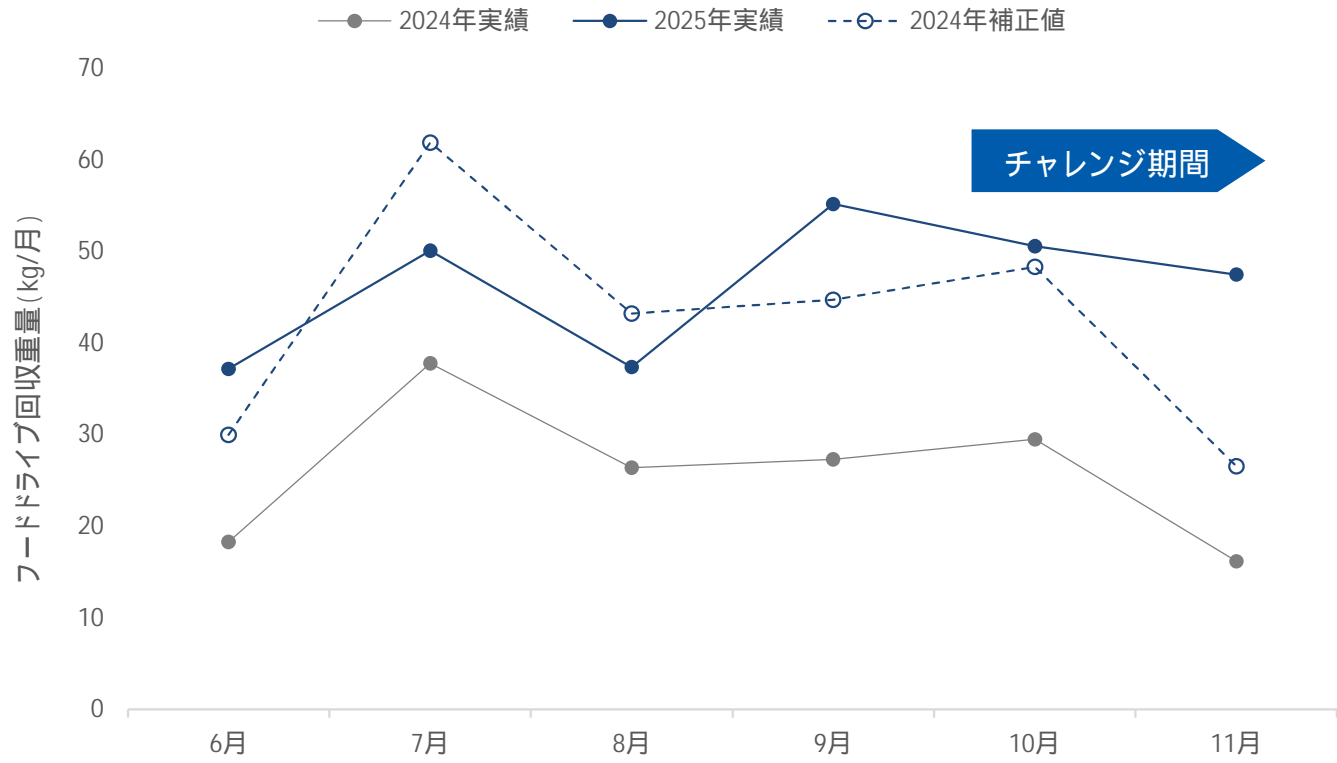
*2 「直接廃棄」頻度及び「食べ残し」頻度のアンケート結果については参考資料に記載



4. 事業の成果

フードドライブの回収量

アンケート調査を補完する指標として、室蘭市内で通年フードドライブを実施しているスーパーマーケット3店舗におけるフードドライブの回収量を調査し、前年度補正值*と比較した。
前年度と比較してモデル事業期間(2025年10月)における回収重量の明確な増加は確認できなかった。



スーパーマーケット3店舗のフードドライブ回収量

* フードドライブ回収店舗数は、2024年は1店舗、2025年は3店舗であるため回収重量を単純比較できない。
そこで2024年6～9月に対する2025年6～9月の回収重量比(164%)を、2024年10～11月の実績値に乗じて2024年補正值を比較対象とした



4. 事業の成果

事業の効果まとめ

本モデル事業では、多忙な子育て世代の「手付かず食品の在庫確認・使い切り・寄付」の行動変容を促すことを目的として、ゲーミフィケーションを取り入れた啓発資料を作成し、学校を通じて小学生に配布した。調査結果は以下のとおり。

1. 児童の行動変容

- 実証参加児童は実証前に比べ食品ロス削減対策の実施率が増加した。
クエストチャレンジ参加により児童の食品ロス削減行動が増加したと考えられる。
- 事後アンケート回答児童の85%がクエスト開始時に宣言した対策を実施できたと回答した。
コミットメントの効果が見られたと考えられる。
- 事後アンケートに回答した95%が「今後も対策を実施したい」と回答した。

2. 保護者の行動変容

- ターゲット行動に設定した食品ロス対策行動3項目の実施率が増加した。
児童を通じた保護者を巻き込む(ナッジ)ことの効果が見られたと考えられる。
- 実証に関する感想からも、小学生を通じた保護者の意識変容や行動変容が確認できた。

3. 食品ロス削減量の推計結果

- 事業前後の食品ロス廃棄頻度から推計した食品ロス削減量は約65kgと推計された。
- フードドライブ回収量は、モデル事業期間中の増加傾向は見られなかった。



5. 今後の検討課題 モデル事業における課題

本モデル事業では、食品ロス削減行動の実践を促すことを目的に啓発を実施し、効果検証を行った。その結果、事業設計および効果検証の観点から、以下の課題が明らかになった。

課題1：目標設定した対策行動とその実施率

- 目標行動のうち「未開封の食品・食材の賞味期限・消費期限を確認」と「傷みやすい食品を優先して使う」については、対策効果が十分に確認できなかった。これは、事業前の実施率が想定より高く、実施率の向上余地が小さかったためと考えられる。
- 一方で、事前実施率の低かったフードドライブ対策では、目標に近い実施率向上が見られた。
- 本モデル事業を通じて子育て世帯における対策行動実施率のベースラインが把握できたことから、今後は向上余地の大きい対策行動をターゲットに事業設計ができるようになると思われる。

課題2：直接廃棄の短期的増加

- 本モデル事業では直接廃棄食品ロス量の削減を目的と設定したが、モデル事業期間中の食品ロス削減量には、「食べ残し」廃棄量の減少が大きく寄与しており、「直接廃棄」廃棄量は微増と推定された。これは手付かず食品の探索を促したことで短期的に直接廃棄が増えたものと考えられる。
- モデル事業を通じて、食品管理が習慣化されることにより長期的には食品ロスの直接廃棄削減につながると考えられる。



水平展開に向けた課題

本事業は、紙媒体を活用した低コスト設計と外部の伴走支援によりモデル事業としては成功した。一方で、自治体主体での継続実施や他自治体への展開を見据えると、運用・体制面で整理が必要である。

課題3: 資料提供のみでは自治体の自走は困難

- モデル事業の成果を支えた運用ノウハウが外部支援や主体的な自治体職員に依存している。
- 事業で作成した啓発資料やマニュアル等を渡すだけでは、実際の運用判断やトラブル対応まで自治体側で担うことは難しい。

課題4: 標準化と個別最適化の整理

- モデル事業では室蘭市に合わせた内容設計や表現等が成果に一定程度寄与したと考えられる。
- 他自治体展開に向けて、共通化要素と自治体ごとに調整が必要な要素の切り分けが課題である。

課題5: 完全内製を前提としない体制設計の必要性

- 自治体職員や公立学校教員は多様な業務を担当しており多忙であることを踏まえると、自治体単独での導入・継続には現実的な限界があると考えられる。
- 信頼される地域のパートナー機関との連携体制が有効と考えられるが、その在り方は自治体ごとに異なるのが実態である。自治体主体 + 外部支援を前提とした、持続可能な役割分担の設計が課題として残る。



6. 事業終了後の展開

モデル実施自治体での継続展開

- モデル事業のフィールドである室蘭市では、次年度以降もモデル事業で開発したチャレンジシートを改良して用いた事業の継続を予定している。実証参加校へのヒアリングを通じて、自走のためのポイントを検討し、自治体内での定着・継続を図る。
- 次年度以降の展開においては、啓発資料から保護者アンケートを削除し、代わりにワークシート上に保護者の感想を記載して回収することを検討している。これにより、引き続き保護者を巻き込みつつ、自治体の負担軽減を図る。

クエスト4 | 最後までアンケートに答えよう！

<児童用> 20 ポイント
あてはまるものに○をつけてポイントをゲットしよう！

① クエストに取り組んでみて、おうちの中の食品が食品ロスにならないようにできましたか？	できた	できなかった
② クエスト2で決めた対さくを実行することができましたか？	できた	できなかった
③ これからも食品ロスをへらすために、おうちや外で取り組みたいですか？	取り組みたい	取り組みたくない
④ 食品ロスをへらすために、これまであなたが取り組んだことがあるものに○をつけよう！		
買い物	おうち	給食や外食
() 買い物前に家の中にある食品をかくにんする	() 残さず食べる	() 給食では食べきれないと思う量を取って、残さず食べる
() 食品を買いすぎないようにする	() 食品ロスが出ないように、他の人に声をかける	() 外食では食べきれない量を注文して、残さず食べる
() すぐに食べる食品は、商品棚の手前から取る	() 食べきれない食品を知り合いの人にあげたりフードドライブにきふする	

<保護者用> 10 ポイント
保護者の人にコメントをもらおう！

お子さまが「むろらんフードロスクエスト」に取り組まれた後の様子をご覧になって、感じられたことやお気づきの点がございましたら、ぜひご自由にご記入ください。



7. 横展開へのポイント

他の団体が類似した取組を実施する場合に留意すべきポイント

- 食品ロス削減は環境部局の所管であることが多いが、学校教育の場での展開にあたっては、教育部局や学校現場(校長、教員)など、**複数の層にわたる関係者の合意形成が必要**である。
- 公立学校教育の場を活用する場合は、ゲーミフィケーション要素や啓発メッセージを設計する際に**生活環境等を考慮した公平性担保が重視されることを踏まえる**必要がある。
- 啓発資料や導入マニュアルだけでは自治体で自走が望めないため、初期の伴走支援を担う地域のパートナーがいることが望ましい。

横展開のために実施している取組

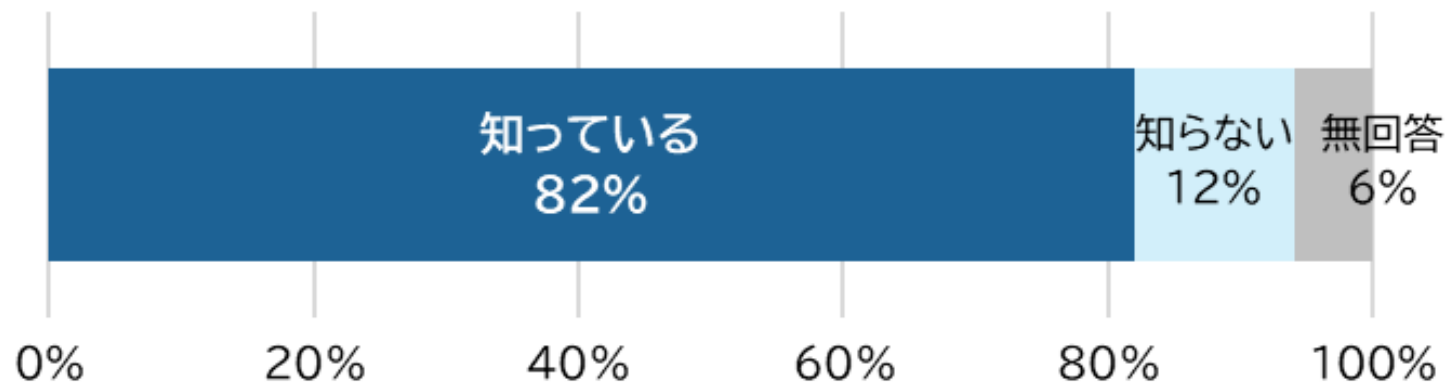
- 北海道行動デザインチームを通じて、北海道内の市町村環境担当者に向けて**モデル事業の成果を発信し、事業への関心・採用意向の把握**を始めている。
- 関心自治体とは、ヒアリング等を通じて各自治体の状況、導入可能性、実施時の課題を整理し、段階的な導入を検討する。すでに1自治体にヒアリングを実施し、モデル事業の採用可能性や今後の展開について意見交換を行っている。
- 実際の展開については、関係者との調整などが必要なため、現時点では不透明であるが、事業終了後も自治体への水平展開を促進する活動を継続予定である。

参考資料



食品ロス問題の認知(児童アンケート)

「食品ロスが問題になっていることを知っているか」については8割強が「知っている」と回答していた。



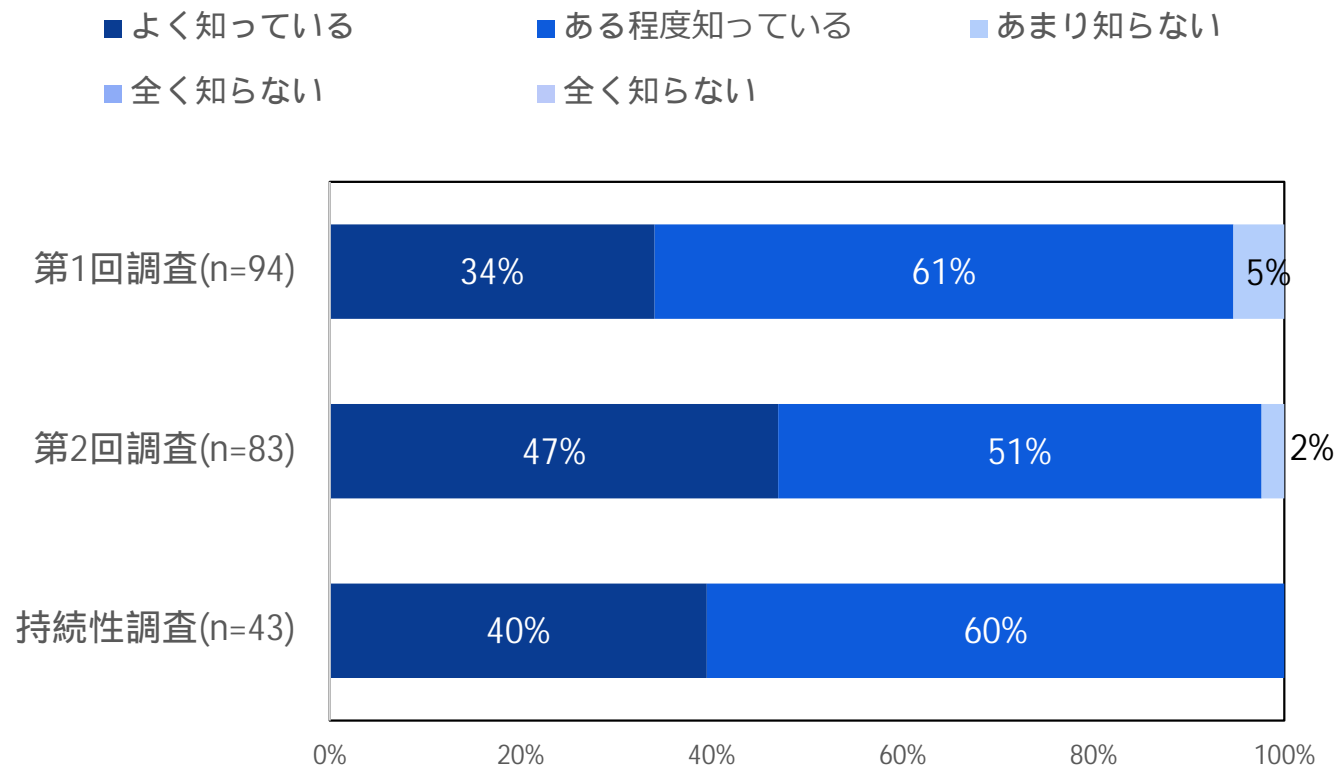
食品ロス問題の認知 (n=134)



食品ロス問題の認知(保護者アンケート)

「よく知っている」「ある程度知っている」を合計した割合は、チャレンジ前後で95%から98%に増加(3%pt増加)し、持続性調査ではさらに2%pt増加した。
 食品ロス問題についての認知度は実証期間を通して微増した。

「食品ロス」の認知度



食品ロス問題の認知

* 持続性調査の回収率は、第1回調査・第2回調査に比べて低く、回答者にバイアスが生じている可能性があることから参考扱いとする

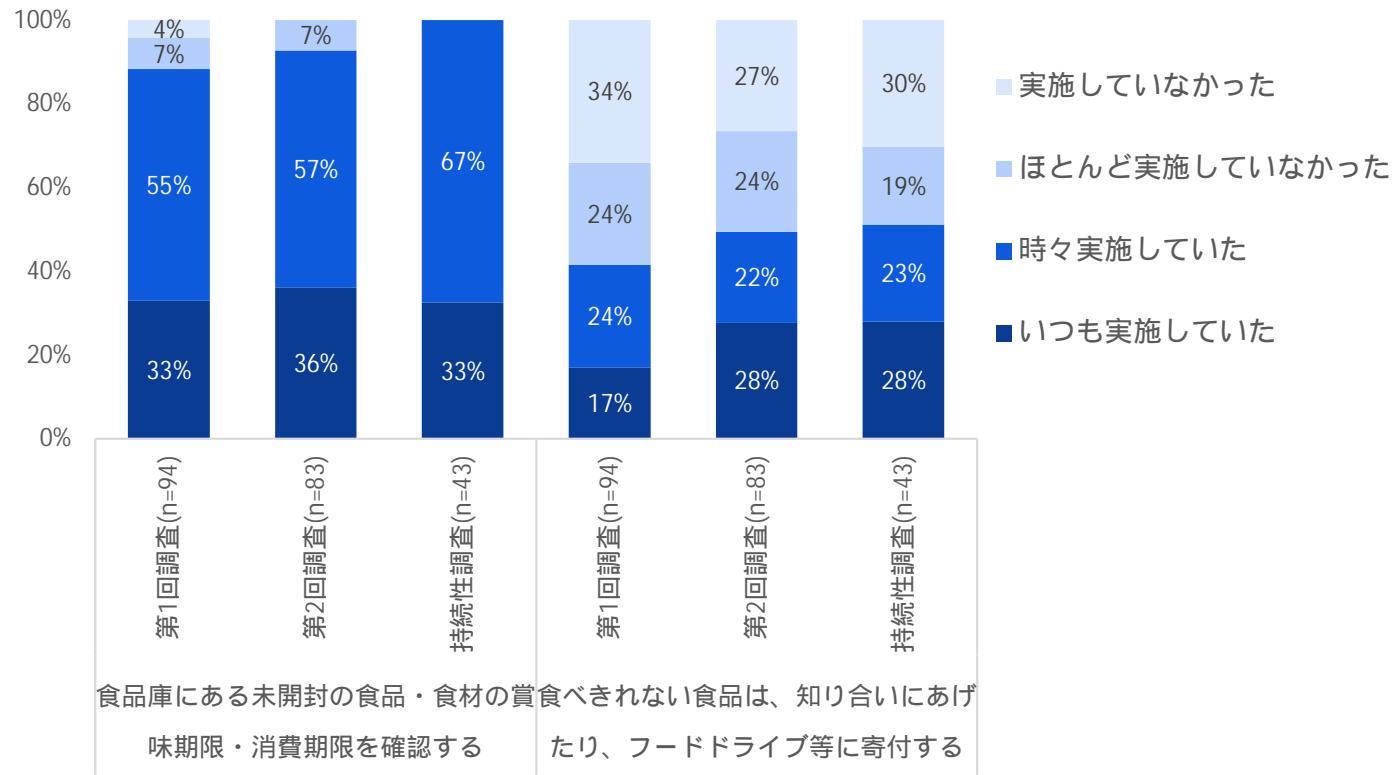


食品ロス対策行動の実施率 (保護者アンケート)

食品の確認・寄付関連行動

「いつも実施していた」と「時々実施していた」の合計割合は、全項目で第1回調査から持続性調査まで一貫して増加した。食品の確認行動は大幅に増加、余剰食品の譲渡・寄付は微増した。

食品の確認・寄付



食品ロス対策行動の実施率

* 持続性調査の回収率は、第1回調査・第2回調査に比べて低く、回答者にバイアスが生じている可能性があることから参考扱いとする



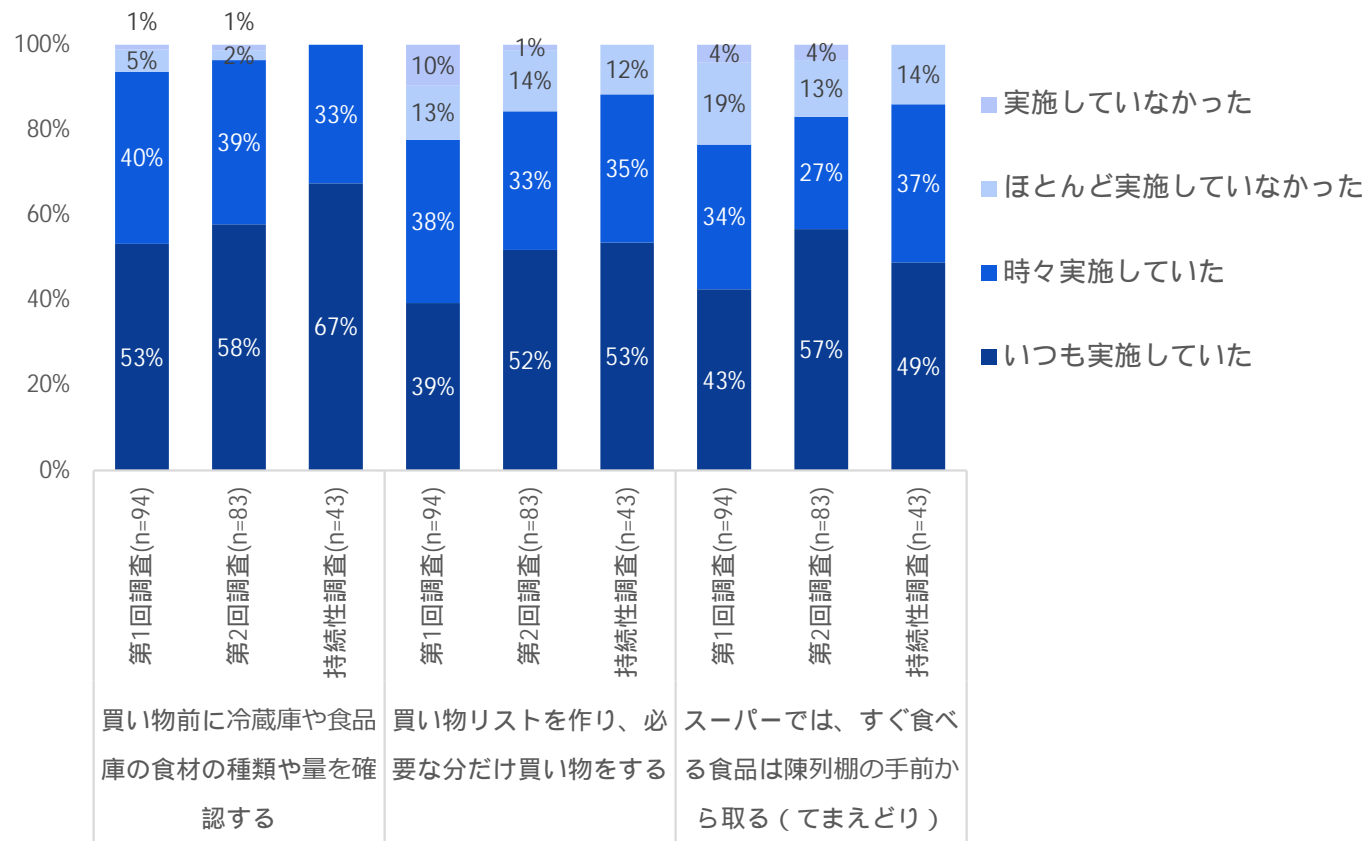
食品ロス対策行動の実施率 (保護者アンケート)

買い物関連行動

「いつも実施していた」と「時々実施していた」の合計割合は、全項目で第1回調査から第2回調査で大きく増加し、第2回から持続性調査で微増した。

買い物前の食材確認は持続性調査の回答者では100%であった。

買い物



食品ロス対策行動の実施率

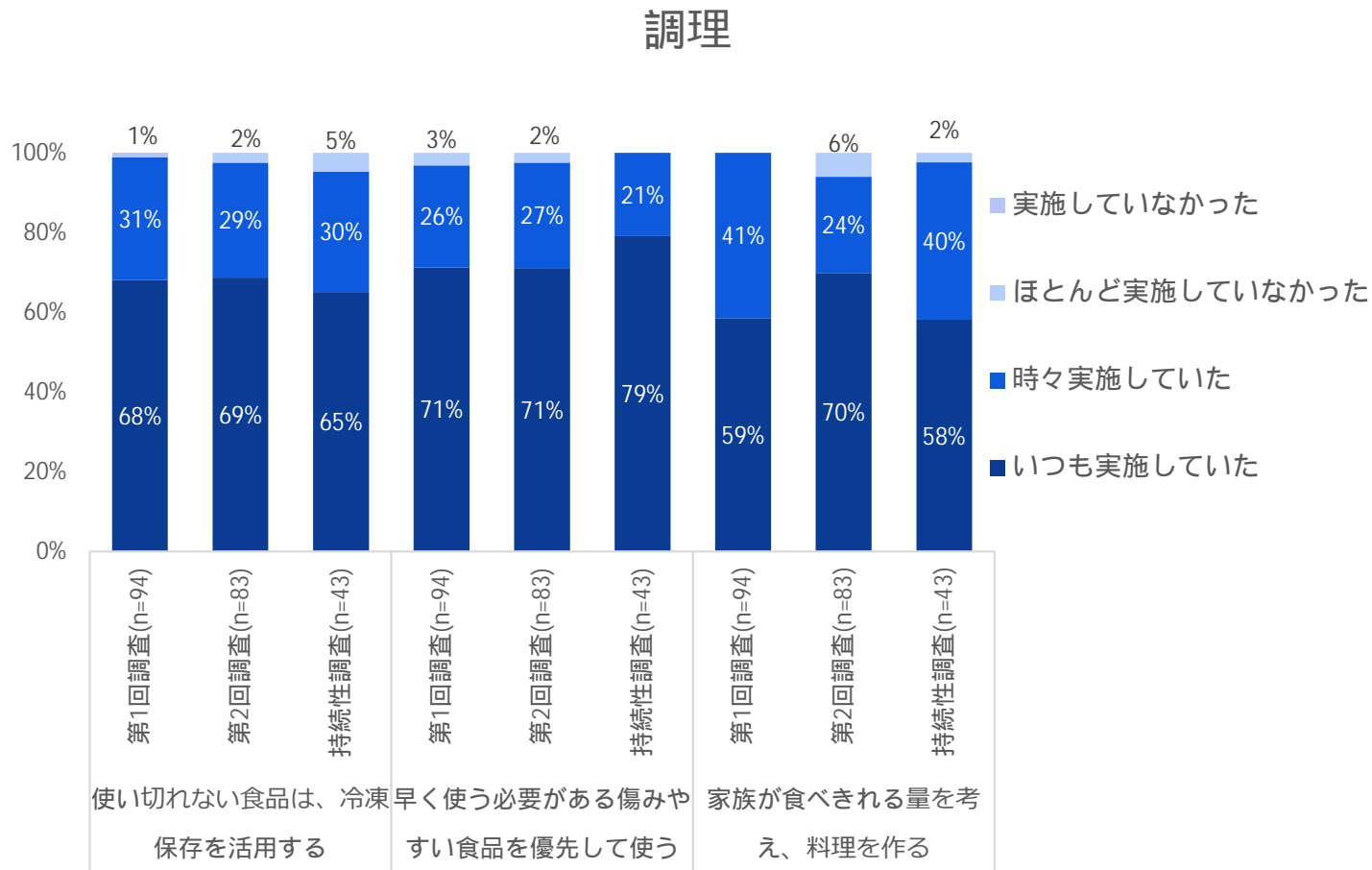
* 持続性調査の回収率は、第1回調査・第2回調査に比べて低く、回答者にバイアスが生じている可能性があることから参考扱いとする



食品ロス対策行動の実施率 (保護者アンケート)

調理関連行動

「いつも実施していた」と「時々実施していた」の合計割合は、全項目で9割を超えた。
 食材の優先使用は、持続性調査で100%であった。



食品ロス対策行動の実施率

* 持続性調査の回収率は、第1回調査・第2回調査に比べて低く、回答者にバイアスが生じている可能性があることから参考扱いとする



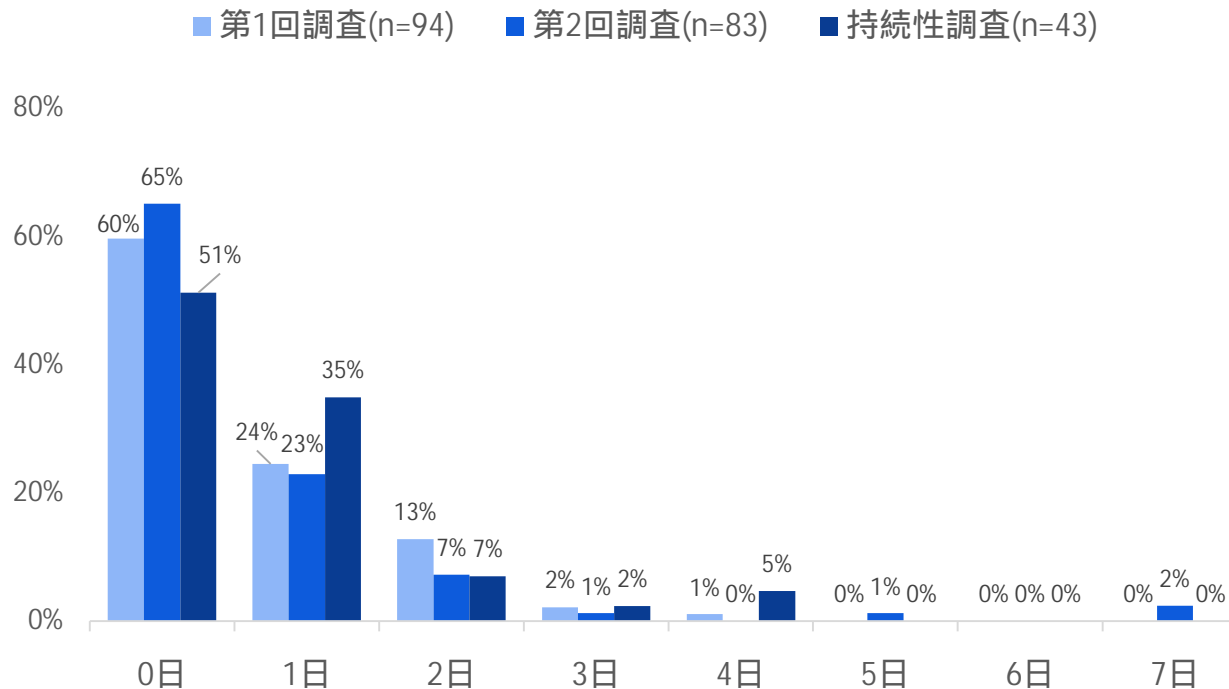
事業前後の食品廃棄頻度の比較 (保護者アンケート)

賞味期限・消費期限切れ (直接廃棄)

廃棄日数0日の世帯割合は第1回調査から第2回調査にかけて60%から65%に増加し、持続性調査で51%に減少した。他方で、廃棄日数1日の世帯割合は持続性調査で35%と、第1回(24%)、第2回(23%)より高い値となった。

モデル事業を通じて、食品・食材の賞味・消費期限確認が家庭内で実践されたことで、事業終了後に直接廃棄が増えた可能性が考えられる。

食品・食材を捨てた日数_賞味期限・消費期限切れ



事業前後の食品廃棄頻度の比較

* 持続性調査の回収率は、第1回調査・第2回調査に比べて低く、回答者にバイアスが生じている可能性があることから参考扱いとする

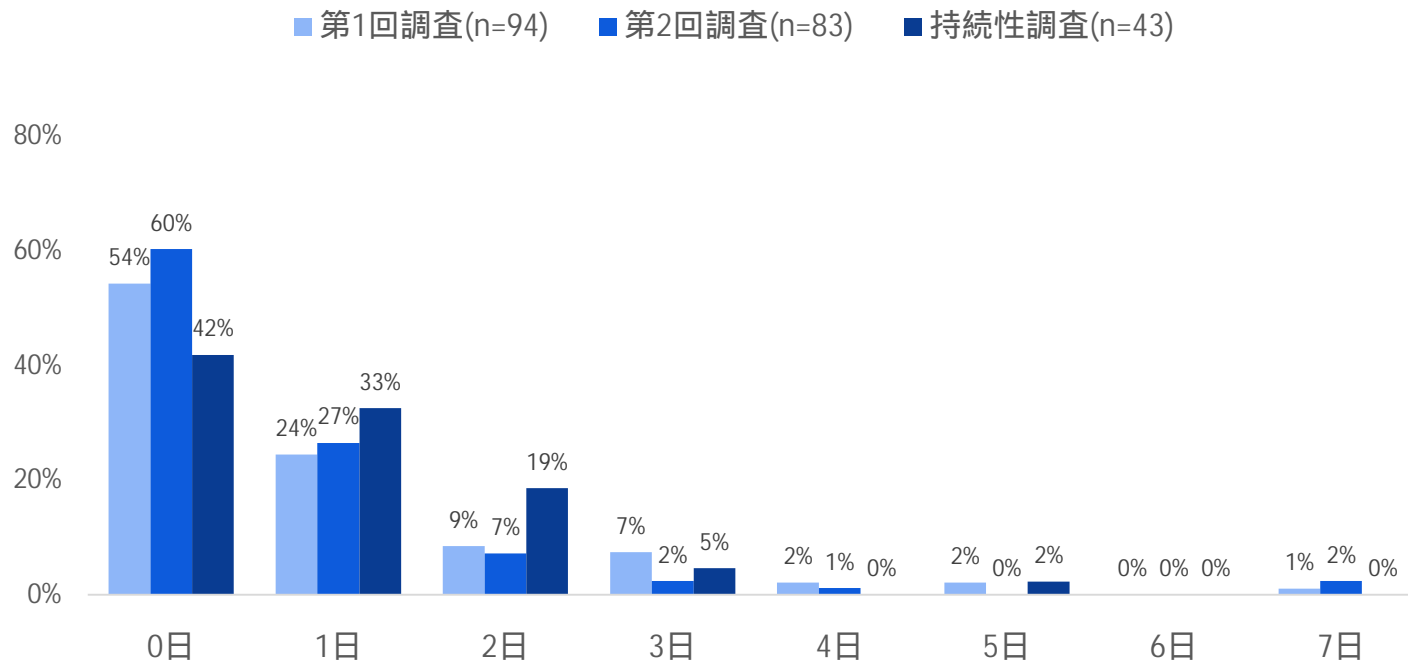


事業前後の食品廃棄頻度の比較(保護者アンケート)

食べ残し

廃棄日数0日の世帯割合は第1回調査から第2回調査にかけて54%から60%に増加し、持続性調査で42%に減少した。他方で、持続性調査で廃棄日数2日の世帯割合は19%と、第1回(9%)、第2回(7%)より高い値となった。

食品・食材を捨てた日数_食べ残し



事業前後の食品廃棄頻度の比較

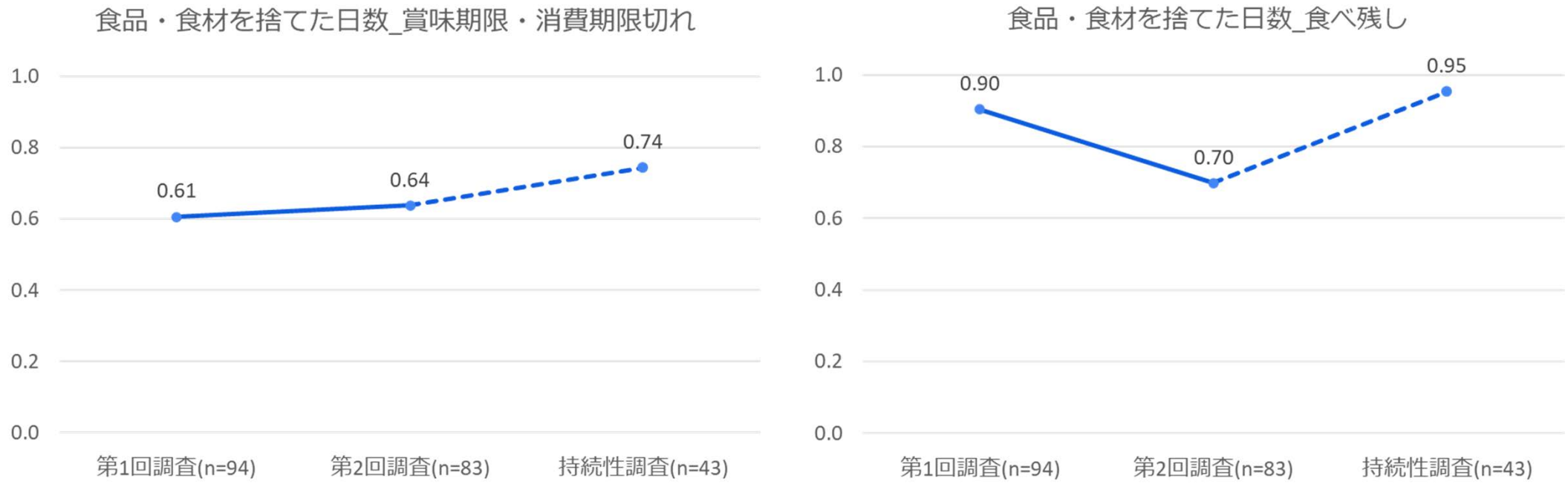
* 持続性調査の回収率は、第1回調査・第2回調査に比べて低く、回答者にバイアスが生じている可能性があることから参考扱いとする



事業前後の食品廃棄頻度の比較(保護者アンケート)

平均廃棄頻度

賞味・消費期限切れによる廃棄頻度の平均値は第1回調査に比べて第2回調査で微増であった。一方で、食べ残しによる廃棄頻度の平均値は第1回調査に比べ第2回調査で0.2(日/週)の減少となった。



事業前後の食品廃棄頻度の平均値(日/週)
左:直接廃棄、右:食べ残し

* 持続性調査の回収率は、第1回調査・第2回調査に比べて低く、回答者にバイアスが生じている可能性があることから参考扱いとする



児童が自宅で見つけた食品(チャレンジシート)

参加児童が自宅で見つけた、賞味期限が一番短い食品としては、「ツナ缶」「インスタントラーメン・カップラーメン」「しょうゆ」が特に多かった。

自宅で見つけた、カテゴリごとの「一番賞味期限が短い」食品

分類	缶詰	インスタント・レトルト食品	調味料
1位	ツナ(19)	ラーメン(70)	しょうゆ(32)
2位	さば(13)	カレー(19)	わさび(10)
3位	パン(11)	スープ(8)	焼肉のたれ(8)
4位	トマト(10)	焼きそば(5)	にんにく(7)
5位	桃(7)	ごはん(3)	ポン酢(6)

表注: ()内は回答した人数